



だより



R7.5.13 Vol.6

四方山話真穴 ver2. 番外編(母の席に座ってください。)

先日の市研究集会。教育長さんが10年前にこの集会で紹介された話を再度、紹介されました。  
こんな話でした。

「母の席に座って下さい」

その先生が5年生の担任になったとき一人、服装が不潔でだらしなく、どうしても好きになれない少年がいた。中間記録に先生は少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。

あるとき、少年の1年生からの記録が目にとまった。

「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。勉強もよくでき、将来が楽しみ。」とある。間違いだ。他の子の記録に違いない。先生はそう思った。

2年生になると、

「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する。」と書かれていた。

3年生では

「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りする」後半の記録には「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり。

4年生になると

「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子供に暴力をふるう」。先生の胸に激しい痛みが走った。ダメと決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間として自分の前に立ち現れてきたのだ。

先生にとって目を開かれた瞬間であった。放課後、先生は少年に声をかけた。

「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない？分からないところは教えてあげるから。」少年は初めて笑顔を見せた。

それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。授業で少年が始めて手をあげたとき、先生に大きな喜びがわきおこった。少年は自信を持ち始めていた。

クリスマスの午後だった。少年が小さな包みを先生の胸に押し付けてきた。あとで開けてみると、香水の瓶だった。亡くなったお母さんが使っていたものに違いない。先生はその一滴をつけ、夕暮れに少年の家を訪ねた。雑然とした部屋で独り、本を読んでいた少年は気がつくやうに飛んできて、先生の胸に顔を埋めて叫んだ。

「ああ、お母さんの匂い！きょうはすてきなクリスマスだ。」

6年生では先生は少年の担任ではなくなった。卒業のとき、先生に少年から1枚のカードが届いた。

「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした。」

それから6年。またカードが届いた。

「明日は高校の卒業式です。僕は5年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金をもらって医学部に進学することができます。」

(裏面へ続く)

----- 切り取り線 -----

10年を経て、またカードがきた。そこには先生と出会えたことへの感謝と父親に叩かれた経験があるから、患者の痛みがわかる医者になれると記され、こう締めくくられていた。

「僕はよく5年生のときの先生を思い出します。あのままだめになってしまう僕を救ってくださった先生を神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、5年生のときに担任してくださった先生です。」

そして1年。届いたカードは結婚式の招待状だった。

「母の席に座ってください」

と1行、書き添えられていた。

いかがでしたか？この話は、教育とは、教師とは、人とは、子供とは、家族とは何なのか。たくさんのことを語りかけてくれます。

私たち教師は、感情を持つ生身の人間を相手に日々を過ごしているのだということを胸に刻まないといけません。10年後、教師としての私はもういませんが、この思いはこれからの教育を担っていく若い先生方にしっかり伝えていかなければならないことだとも感じています。もしかすると教育長さんも、今、現場にいる我々にそんなことを伝えたかったのかもしれないね。

### そんなわけないやろ！

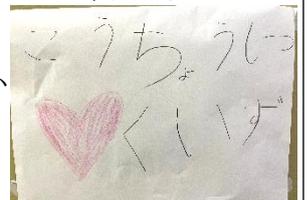
曇りの日、(今にも降り出しそうな天気ではあったのですが、)登校中、一人、傘を指している1年生の男の子がいました。「あれ？今は雨降ってないよ！傘ささんでも大丈夫よ！」そう声をかけると「なんか怖いんよ…。」「え？何で？あ！もしかして〇〇君！雨が体に当たったら体ごとけるんか！！？」そういうと突然、半ギレ気味の可愛い笑顔で「そんなわけないやろ！それは校長先生やろ！」と傘をそそくさと畳みました。『冗談のつもりだったんだけど傷つけていたらごめんね』と胸の中で謝りつつ、その子を見ると何事もなかったかのようにスタスタと歩いています。この時期の1年生。可愛いすぎる。



### 学校探検

先日、2年生がリーダーになって1年生を案内する学校探検が生活科の学習でありました。校長室のドアにもこんな案内が。

これを貼りにきた2年生の女の子に、「このハートは校長先生！大好き！ってことやろ？」



と尋ねると、(私の中では、そんなわけないでしょ！という返事を思っていたのですが)当たり前のように「うん！そうですよ！」「え？あ？そ、そうなの。なんかありがと…。」こっちが照れてしまいました。これまた可愛いすぎる。(笑)

### 四方山話真穴 ver2. 其の六(負けませんよお)

「今年も校長室便り！週1のペースで頑張ります。」と、職員にも言ったところ「校長先生！負けませんよお～」と堀早希先生が不敵な笑みを浮かべていました。只今！この便りが第6号、1年生の通信も第6号！が、ちょっと押され気味です。「堀先生！知っとると思うけど、学校から出す文書は校長の許可がないと出せんので！いざとなったら、許可せんけん！」とおとなげないセリフを吐くと「校長先生、パワハラってご存じですか？私の近くには石井先生というパワハラ相談員もいますけど。」「今の発言…なしでお願いします…(汗泣)」とりとめもない雑談ではありますが、担任がこまめに子供たちの様子を保護者の皆さんに伝えてくれることをありがたいなと思います。もちろん、手段は通信に限ったことではありません。保護者の皆さんと関わりを持つこと、職員共々、大切にしていきたいです。